

令和2(2020)年度 各校務分掌部・各学部の学校評価結果

【重点目標】(1)合理的配慮に基づいて、児童生徒一人一人の力が可能な限り発揮され小中高訪問寄宿舎一貫した魅力ある指導内容と指導方法の工夫に努め、「一人一人が分かって動ける」授業づくりを実践する。

- (2)児童生徒が安心して学べる学習環境づくりと、防災安全教育の実践を行う。
- (3)教職員相互の信頼と協働体制をもって指導に臨み、明るく意欲にあふれた学校づくりに努める。
- (4)保護者や関係機関との情報交換や連携を密にし、心の通う学校づくりに努める。
- (5)本校の教育についての情報を積極的に発信し、地域と連携した特色有る学校づくりに努める。

1 分掌部の評価

評価基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:どちらかという達成できなかった D:達成できなかった

部	重点目標を達成するための目標	評価項目	評価の観点(具体策)	評価	成果	課題と改善策等
教務部	・児童生徒一人一人が分かって動けるための授業づくりの実践に向けて、教育環境の充実を図る。(1)	・教育課程の見直し ・教材教具の紹介や備品の管理 ・職員のニーズに応じた研修会の企画や情報提供	・新学習指導要領の内容と各学部の実態に即した教育課程を編成することができたか。 ・教材教具や備品を整理し、有効活用することができたか。 ・ニーズに応じた(プチ)研修を企画したり、研修の情報を提供したりすることができたか。	B	・新学習指導要領の内容と学部の実情を踏まえて教育課程を見直すことができた。中学部については、新しく「職業・家庭」を立ち上げた教育課程を編成することができた。 ・新しい教材を購入することは難しかったが、既存の教材を整理し有効活用することができた。 ・学部ごとに研修をしたり、有志や分掌部主催の研修が行われたが、教務部として、研修を呼びかけたり、研修をとりまとめることは難しかった。	・来年度は、小中高の系統性を考慮しながら高等部の教育課程の見直しを進めていく。 ・今後も予算が削減されることが予想されるので、教材リストを作成するなどして、既存の教材や備品を学部を越えて利用できるようにする。 ・教務部が校内研修の窓口となり、外部の研修情報を提供したり、校内の研修をとりまとめたりしていく。 ・今年度の反省や新型コロナウイルス感染症対策を考慮しながら来年度の行事調整を行っている。
	・各学部、各分掌部と連携を図り、児童生徒が安心して学べる学習環境作りを行う。(2)(3)	・各学部や各分掌部との連携 ・行事の調整 ・業務の見直しや引継ぎ ・資料等の適切な管理	・各学部や各分掌部と連携し、行事の調整を行うことができたか。 ・就学相談係の業務を地域支援部に引き継ぐと同時に、協力態勢を整えることができたか。 ・係ごとに業務を見直し、資料の整理や管理を適切に行うことができたか。	A	・臨時の行事調整会議や管理職レクチャーなどを通して、行事を調整することができた。 ・就学相談係と連携し、学校見学会や教育相談、校内教育支援委員会などを実施することができた。 ・係ごとに業務を見直し、資料の整理や管理を適切に行うことができた。	・今後も、就学相談係との連携を密にし、適正な就学に向けての情報提供などを行っている。 ・業務内容を明確にしたり引継ぎをスムーズに行ったりするために、「校務運営計画」の業務内容の見直しをしたり、資料の整理をしたりする。
学習指導部	・「一人一人が分かって動ける」授業づくりのため、教員間で学び合う研修の機会を作り、指導力向上を図る。(1)	・校内研究の内容の充実化 ・校内研究報告会の実施	・研究グループごとに主体的・対話的で深い学びのための振り返り観点を十分に活用し、次の授業に活かすことができたか。 ・研究グループの研究内容や成果について全教職員で共有することができたか。	A	・研修日には各研究グループごとに振り返り観点を(振り返りシート)を活用しながら、授業の振り返りを行うことができた。 ・研究グループの成果については、研究紀要としてまとめると共に校内研究報告会を実施し、研究の成果を教員間で共有する予定である。	・臨時休校が長引き、校内研究を開始するのが遅れてしまった。そのため、行事予定に入れてあった5回の研修日も少しずつ遅れてしまった。予定通り実施できるように準備を進める。
	・指導内容と指導方法の工夫に努め、年間指導計画や単元指導計画の見直し及び作成を行う。(1)	・新学習指導要領についての研修会の実施 ・年間指導計画や単元指導計画の見直し及び作成を行う。	・各学部ごとに研修の機会を設け、新学習指導要領についての理解を深め、年間指導計画や単元指導計画の作成に役立てることができたか。 ・各学部ごとに作成チームを作り、共通理解を図りながら計画を立てることができるようになる。	B	・コロナウイルス感染症対策の影響で各学部ごとの研修はできなかったが、教育課程研究や校内研究の係会や掲示板、回覧等を利用して新学習指導要領の内容について教職員に向けて発信することができた。 ・各学部ごとに年間指導計画や単元指導計画の見直しや作成を行うことができた。	・今後もコロナウイルスの感染症対策のために、以前のような大勢が集まって実施するような研修はできないことが予想される。なので研修の方法や内容について検討し、効率的に研修できるようにする。 ・R3は、年度始めに各学部ごとに年間指導計画の作成計画(案)を出し、計画的に作成できるようにする。
特別活動部	・各種行事において、児童生徒一人一人が集団の一員として自分の役割を自覚し、自主的に活動に取り組むことができるようにする。(1)	・集団の一員という意識付け ・活動内容の設定	・児童生徒一人一人が集団の一員として活動していることを自覚できるような実施計画を立案できたか。 ・児童生徒一人一人の実態に応じて、自主的に取り組むことができる活動内容を設定することができたか。	B	・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度までは大きく違った形で各種行事を実施することになったが、感染症対策を講じてできる範囲の中で児童生徒一人一人の活動をイメージした内容を考え、計画を立てることができた。	・次年度も新型コロナウイルス感染症の影響が大きいことが想定される。今年度実施した形を参考にさらにアイデアを出し合い、それぞれの行事の中で児童生徒一人一人が活躍できるように工夫する。
	・各係業務において、事前の準備を円滑に進め、担当者の能力やアイデアを十分に活用できるようにする。(3)	・バランスを意識した校務運営計画の作成 ・係及び部内全体で協力できる体制	・校務運営計画を作成するにあたって、係が重複している教員の業務の量や時期を考慮し、バランスよく担当を分けることができたか。 ・担当者だけでなく係及び部全体で情報を共有することができたか。	B	・各担当行事が中止や延期、内容を変更しての実施ということで、業務を抱える時期が長く続くなど負担が大きくなった係もあったが、担当者を中心に、感染症対策など細かく対応して業務を進めることができた。	・次年度は臨機応変に対応できる体制を整えと同時に、管理職との連携を強化して運動会やなとく祭など大きな行事の方向性を早めに決定し、行事調整などの業務を進めやすいようにしていく。
生徒指導部	・状況を理解し、落ち着いて行動できる防災教育を実施する。(1)(2)	・3密に配慮した、各種防災訓練の実施 ・児童生徒が落ち着いて行動するための工夫や取組 ・事後学習の充実 ・新たな形の引き渡し訓練の実施	・3密に配慮しつつ、効果的な避難訓練が実施できたか。 ・児童生徒や教職員にとって見通しのもてる避難訓練が実施できたか。 ・学級や学習グループの実態に応じ、充実した事後学習ができたか。 ・これまでと異なる状況を想定した引き渡し訓練ができたか。	B	・避難場所の分散化や校内放送を活用した講評の実施など、感染症予防対策を講じながら必要最低限の避難訓練が実施できた。また、新しい形の引き渡し訓練を計画することができた。	・児童生徒が主体的に防災意識を高めるような取組が不十分だった。 ・次年度は防災教育週間(仮)を計画し、児童生徒が防災グッズ等に触れたり、避難生活を模擬体験したりできるよう検討中である。
	・初期いじめに気付くことができ、迅速に対応できるよう、教職員の意識向上を図る。(2)	・いじめレベル0の認知件数 ・情報共有するためのシステム活用 ・校内研修の効果的な実施	・初期いじめに関する職員の意識が高まり、いじめレベル0の事案に気付くことができたか。 ・迅速にいじめの対応ができたか。 ・効果的な研修ができたか。	A	・いじめ発生から、初期対応、レベル区分決定までの流れを明確にし、実行できた。 ・校内研修は、職員会議後の10分間を活用したミニ研修を数回実施した。本校の実情に添った内容で効果的に実施できた。	・いじめの認知について、職員間で意識の差が見られる。一定の水準まで意識を高めることができるよう、引き続き啓発に努める。

部	重点目標を達成するための目標	評価項目	評価の観点(具体策)	評価	成果	課題と改善策等
健康指導部	・定期健康診断の検診内容を児童生徒一人一人が理解し、円滑及び安全に実施することができる。(1)(2)	・児童生徒が検診内容を理解するための視覚支援教材の活用。 ・3密に配慮した実施計画の作成及び実施。 ・教職員間の連携。	・教材の活用により、児童生徒は見通しをもって検診を受けることができたか。 ・3密に配慮した定期健康診断の実施計画を立て、実施することができたか。 ・教職員間で連携を図り、円滑及び安全に実施することができたか。	B	・視力検査の検査教材を保健室で貸し出して、事前に学習するクラスがあり、児童生徒が見通しをもって検診を受けることができた。 ・3密に配慮して、細やかな計画を立てて検診を実施したが、内線電話でクラスを呼び出した際、検診会場まで時間かかるクラスがあり、医師を待たせてしまったり、次のクラスと重なって生徒が密集してしまったりした。 ・養護教諭、養護助教諭を中心に検診の準備に当たり、円滑及び安全に実施することができたが、掲示板を使って行った検診の実施計画の伝達が不十分であった。	・今後も検査教材の貸出を行う。 ・今年度同様に細やかな計画を立てるとともに、来年度は呼び出しが有り次第、直ぐに教室を出て検診会場に向かうよう周知する。 ・掲示板だけでは周知が難しいため、計画書を各職員室に貼り出すとともに、学部主事及び学年主任に配付し、職員への周知を依頼していく。
	・感染症防止対策を十分に行い、児童生徒が安心して生活できる環境を整える。(2)(3)	・感染症防止対策及び具体的な対応の計画及び教職員への周知。 ・校内除菌作業の徹底。	・感染症防止対策及び具体的な対応を職員に周知し、学校全体として取り組むことができたか。 ・毎日、校内を除菌し衛生的な環境を保つことができたか。	A	・発熱者の対応等を職員に周知し、各学部の協力を得ながら対応することができた。 ・職員の協力の下、校内の除菌作業を毎日実施してもらい、衛生的な環境を保つことができた。 ・感染症の発生状況により、消毒作業を軽減したり、元に戻したりして効率よく行うことができた。	・今後も、保健室及び各学部主事と連携を図りながら、発熱者の対応に努めていく。 ・教員業務補助職員に放課後の2棟・3棟の除菌作業を協力してもらい、高等部職員の負担を軽減することができたので、今後も協力が得られるとよい。 ・今後も学校周辺の感染症発生状況を確認し、管理職の助言を得ながら、消毒作業の見直しを行っていく。
進路指導部	・研修等をととして、各学部におけるキャリア教育の充実を図る。(1)(5)	・放課後、学部会等を活用した研修の実施 ・掲示板や回覧を利用した情報の発信及び進路希望調査に基づく情報提供	・キャリア教育を意識できるような研修が実施できたか。 ・進路に関する必要な情報を発信することができたか。	B	・今年度はコロナウイルス感染症の影響で放課後や夏季休業中の研修を実施することができなかった。 ・掲示板や職員回覧、進路のたり、ホームページ等を活用し、進路の関する情報を発信することができた。	・集団で集まることできないときにどのように情報を伝えるのかを検討する。 ・掲示板や回覧だと情報が一方的になってしまう。引き続き情報の発信は行うが、先生方が必要としていることを発信できるようにする。
	・在学中から卒業後に関係してくる地域の事業所や関係機関等と連携を密にとる。(4)(5)	・産業現場等における実習や校内実習、職場見学等の進路関係行事での地域や関係機関との連携 ・個別の進路相談会の実施	・相談会やケース会議等を活用し、関係機関と連携が図れたか。 ・産業現場等における実習や校外での学習を通して、企業や福祉施設と連携することができたか。	B	・進路相談会や個別のケース会議等では関係機関と連携しながら実施することができた。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で実習先の受入は厳しいものになったが、企業や福祉施設と連携し、受入の方法を検討しながら実習を行うことができた。	・引き続き、関係機関と連絡を取りながら相談会やケース会議を実施する。 ・今後の状況をよくみて進路先や実習先の開拓を行う。また、生徒、保護者にも説明や情報提供を行い、啓発に努める。
地域支援部	・地域の中でも力を発揮して活動できるよう、温かい受け皿としての地域を目指して、本校児童生徒の理解啓発に努める。(4)(5)	・地域支援事業(地域間交流等)の充実 ・センター的機能の充実	・本校児童生徒を理解してもらう機会と捉え、交流を行うことができたか。 ・障害特性の理解や、支援方法を広めることができたか。 ・巡回相談では、要請先に本校の実践を伝えることができたか。	B	・新型コロナの影響で地域間交流のほとんどが実施できなかったが、高等部においては大山コミュニティと花いっぱい運動を感染対策をしながら実施することができた。他の交流については手紙を送る間接交流となった。 ・矢板市の幼保小巡回相談において、本校での実践を伝えることができた。また、黒羽高校の通級指導教室に行き、担当教諭の相談にのることができた。	・感染症対策をしながらの交流がどのように、どこまで行えるのかを、検討していく。実施できない場合には今年度同様、間接的な交流を継続していければと思う。 ・交流のホームページを活用して発信していく。 ・巡回相談に行く際には、早期教育相談を利用している児童の情報の共有を行い、スムーズに情報交換ができるようにしていく。また、高校で求めていることを把握した上で、本校での取り組みなどをお伝えしていくようにする。
	・児童生徒が意欲的に生き生きと学習できるよう、地域との協働に努める。(1)(5)	・地域施設や設備の積極的な活用 ・地域の人材の発掘及び協働 ・学校支援ボランティアの育成及び協働	・授業で、必要に応じて地域施設を活用したり、ボランティアと協働したりすることができたか。	C	・大山公民館を利用した活動について、高等部の大山ふれ愛・花いっぱい運動を、回数を減らして実施。事前の健康観察、屋外での距離をのびのび活動等の感染対策対応をした上で実施。 ・ボランティアスクールについて、実施時期を後半にずらす、内容を縮小する等の変更を検討したが、社会情勢を鑑みて中止を決定。 ・新型コロナの影響で、学校支援ボランティアの活動は休止。 ・新型コロナの影響で、読み聞かせボランティアの活動は休止。	・活動内容によって、感染症対策をとれるものについては順次実施していく。 ・令和2年同様、実施時期を10月に予定して実施を検討する。 ・地域の新型コロナの感染状況を鑑みて実施を検討。連絡は随時取りあっている。 ・来年度の感染状況を鑑みて実施を検討。連絡は随時取り合っていく。
渉外部	・感染症対策に留意しながら、円滑なPTA活動を実施する。(4)(5)	・保護者との信頼関係の構築 ・PTA各役員との連携	・保護者が主体的に活動できるよう、具体的な活動計画を立案・実施できたか。 ・学校側の基本的な方針を丁寧に伝えたり、保護者の要望を受け入れたりしながら活動ができたか。	B	・例年どおりの活動はできなかったが、PTA各役員の見解を取り入れながら、人数や場所、方法を工夫して実施可能な活動を行うことができた。新しい試みとして、保健体育委員会では、小学部の運動会において競技補助を実施した。また、なご祭準備委員会では飲料販売やリサイクル制服配布を実施し次年度以降につながる活動となった。	・感染症対策のため、学校主体での活動が多くなってしまった。次年度は、予め感染症対策を考慮した活動計画を立案していく。 ・保護者が主体的に活動できるように、渉外部職員が意識的に関わっていきたい。
	・卒業生又はその保護者同士の関係の維持のため同窓生と親の会への積極的な入会を促す。(4)(5)	・同窓生と親の会の活動についての説明会の実施 ・同窓生と親の会の活動の充実	・在校生又はその保護者に会の活動や意義が理解され、入会者数を増やすことができたか。 ・同窓生と親の会の役員と連携を図り、活動を実施することができたか。	C	・高等部3年生保護者対象に同窓生と親の会についての説明を実施予定。卒業生同士、または保護者同士のつながりの大切さを伝えていく。 ・会員が集まれる行事は実施できなかったが、役員からの意見をもとに定期的に通知の発送をしたり、会報の中に会員の声を掲載したりすることができた。	・卒業人数に対しての入会数が少ない状況である。次年度以降、高等部3年生とその保護者が同窓生と親の会の活動に直に触れられる企画をし、入会者数増を目指したい。

2 各学部の評価

評価基準 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:どちらかという達成できなかった D:達成できなかった

学部	重点目標を達成するための目標	評価項目	評価の観点(具体策)	評価	成果	課題と改善策等
小学部	・児童一人一人が意欲的に活動できる授業づくりを行う。(1)	・児童の興味や関心を基にした学習内容や指導方法の工夫、活動展開の工夫 ・研究グループごとの授業実践と振り返り ・授業実践の記録の蓄積と学部内での研究の共有	・一人一人が自分から活動しようとする学習を展開することができたか。 ・グループごとに研究テーマを設定し授業を行い、振り返ることで次の授業に生かすことができたか。 ・指導案(授業連絡票)や教材を作成し、学部全体で研究や教材を共有することができたか。	B	・児童の興味関心を生かした学習内容や一人一人が活躍する場の設定、児童とのやりとりを通した意欲の喚起など授業づくりに工夫し学習が展開できた。 ・今年度は自立活動における「分かって動ける授業づくり」として研究を実践、授業振り返りシートを活用した話し合いを通して課題を次の授業に生かした。 ・学部会においての研究発表や教材についての情報の共有がなかなかできなかった。	・児童が見通しを持ち活動に取り組める工夫が多く見られるようになってきているが、児童の主体的な動きを導き出すための授業の振り返りなどの話し合いや教員の研修を今後も継続して行う。
	・一人一人に応じたコミュニケーション手段の定着を図り、自分の気持ちや要求を相手に伝える力を高める指導を行う。(1)	・実態に応じたコミュニケーション手段の活用と定着 ・学習活動におけるやりとりの場の設定 ・保護者や関連機関との連携	・実態に応じたコミュニケーション手段の積極的活用により定着化を図れたか。 ・授業の活動に「選択する活動」や「振り返りの活動」などのやりとりの場面を多数設定することができたか。 ・個別懇談等において保護者と情報を共有することで連携して活用することができたか。	B	・児童の実態に応じたコミュニケーション手段を活用したやりとりが定着してきている。 ・児童とのやりとりの場面を多数設定し、その経験を繰り返すことで児童のコミュニケーションの力が身につけてきている。 ・個別懇談などで学校の様子を伝えることで情報の共有ができた。	・児童が自発的にサインや絵カードを活用して、自分の気持ちを表現することがうまくできるようになってきている。今後もそれらの活用を継続するとともに、児童の変容や成長に伴い、使用するサインやカードを増やしたり、使い方に工夫をしていけるようにする。
中学部	・各教科、領域教科をあわせた指導の関連性を高め、系統性のとれた年間指導計画を作成する。(1)	・新学習指導要領の完全実施に向けた年間指導計画の作成。	・学習指導要領で示された目標及び内容を本校の実態に応じて網羅した指導計画となつたか。 ・系統性を考え、生徒の実態に合った指導計画となつたか。	B	・学習指導要領の完全実施に向け、生活単元学習の年間指導計画の見直しと、職業・家庭の年間指導計画の作成を行った。生活単元学習では、合わせて指導している各教科の内容をできるだけ取り込む形で作成した。また、職業・家庭は令和3年度から週に1時間取り出して指導を行うため、各クラスで指導した方が良いと思われる内容を組み込んで作成した。	・学部内での系統性を考えながら指導計画を作成したが、令和4年度の高等部の新学習指導要領完全実施に合わせ、各学部の計画の系統性も更に検討していきたい。指導計画を実施していく中で、常に見直しを行い、改善していきたいと考える。
	・感染症対策を充実させ、生徒が安心して学べる学校環境を整える(2)	・環境整備と生徒への指導。 ・行事等の計画変更と代替案の充実。	・地域の感染状況に応じた対策を講じ、生徒が安全に過ごせる環境を構築することができたか。 ・安全のための計画変更を工夫して行い、生徒の十分な学びを保証することができたか。	A	・地域での感染の状況に応じ、様々な工夫を行うことでできる限りの学びの保障ができたと考える。行事については、実施できなかった物もあるが、計画を見直すことである程度の目標を達成することができた。感染症対策にも積極的に取り組み、安全な環境を整えることができた。	・今年度、地域に大規模な感染が起こらず、校内に感染者が出なかったことは非常に幸運なことであった。感染を完全に防ぐことは難しいため、校内においては感染してもそれを広げない対応が重要と考えられる。次年度も引き続き最大限の努力をしていきたい。
高等部	・各学習集団の特色を生かしながら、生徒自らが「考え、気付き」主体的に行動する(かかわり)指導のあり方を考え、指導力の向上を目指す。(1)	・新学習指導要領に対応した教育課程の見直し ・自己肯定感や自己有用感を高める工夫 ・構造化や視覚支援ツールの開発	・各コースや学年を中心に検討し、系統感を踏まえたものに改善、活用することができたか。 ・生徒が充実感や満足感を味わうことができ、自信や意欲をもって行動することができた指導の工夫ができたか。 ・構造化や視覚支援ツールが活用できたか。	B	・昨年度に比べ、生徒達が主体的に取り組む場面が増えた。その背景には、分ける授業作りとしてイラストや写真、シールや映像等を活用した視覚支援や工程ごとに部屋を分けたり、動線を分かりやすくしたりする構造化などの工夫も見られたためと思われる。	・今後は、評価の工夫による目標の明確化、達成率を目指していきたい。また、学級どうして授業を見学できる互見授業の体制ならびに互いに評価し合える環境の醸成にも努めていきたい。
	・生徒一人一人が安全安心に学校生活を送れるために学習環境を整備する。(2)	・感染症についての正しい理解と防止対策 ・ヒヤリハットを活用した危機管理意識の向上と情報の共有 ・避難訓練などを通した防災意識の向上	・生徒や教員への正しい理解と各分掌等と連携を図りながら迅速な対応をとることができたか。 ・ヒヤリハットや情報を活用し、危機管理意識を高めることができたか。 ・生活に結びつく防災意識を高めることができたか。	A	・新型コロナ感染症対策においては、職員一人一人の危機意識が高まり適切な指導が行われた。その結果、生徒一人一人がマスクの着用や手指の消毒の徹底が定着した。ヒヤリハット事例については、年度初めに文書紛失や入れ間違いなどのヒヤリハットが続けて見られた。	・新型コロナ感染症対策については、引き続き強化していく。ヒヤリハット事例については、継続して職員の周知を図るとともに発生しやすい時期が明確になっているため、その期間は念入りに注意喚起を行い、職員の危機意識を高めていく。
寮務部	・舎生一人一人が「分かって自ら動ける」取り組みを引き続き実践していく。その記録や成果をまとめる。(1)	・グループ自立学習を通した研究の実践(指導内容・指導方法の工夫) ・キャリア教育の充実	・舎生が見通しをもって意欲的に学ぶことができる活動を実施できたか。 ・一人一人の社会的自立に向けて、必要な能力や態度を育てることができたか。	A	・グループ自立学習の実施にあたっては、事前に指導内容や指導方法について検討する時間を設けることができた。担当するグループはもちろん担当外のグループについても、教材の提示の仕方など工夫すべき点について協議することができた。	・寄宿舎の1部屋1人体制により、舎生各々が均等に学ぶ機会を得ることができなかった。来年度も同様の体制が続くのであれば、指導内容や学習機会、舎生の入舎時期について検討しておく必要がある。
	・舎生が安心して寄宿舎生活を送れるよう、感染予防対策や、防災・防犯対策を実践する。(2)	・舎室環境の整備 ・換気、消毒の徹底 ・舎生の手洗い、うがい、検温などの健康管理の徹底 ・避難訓練の充実	・舎生が安心して寄宿舎生活を送れるよう、必要な予防対策をとることができたか。 ・感染対策について保護者に情報を提供し、理解や協力を得ることができたか。 ・衛生面の指導を行うことで、舎生の感染を予防する意識を高めることができたか。 ・消防署や警察署との連携を図り、災害時に対する効果的な訓練を実施することができたか。	A	・舎生の安全、安心を第一に考え、新型コロナウイルス感染症予防の対策を行うことができた。舎室環境では、換気扇と空間除菌装置を導入してもらった。舎生の衛生面での指導についても、繰り返し指導することで感染予防の意識が高まった。今年度は、舎生が泊まる場所として寄宿舎棟だけでなく生活訓練棟も舎生が使用したので、災害時の対応についても改めて検討し直し、毎月効果的な訓練を実施することができた。	・今年度26名の寄宿舎生を全員受け入れられるよう、段階的な入舎の案を考えて保護者に説明することができた。しかし、他県の寮内でのクラスター発生のため受入方針を変更したため、舎生やその保護者を混乱させる結果となってしまった。感染状況によって受入人数は大きく変わるので、特別支援教育室と連携しながらあらゆる場面を想定して準備していく必要がある。
訪問教育学級	・一人一人の学びに向かう意欲を引き出すため、興味関心に基づいた授業づくりと興味関心の広がりを目指した授業設定を行い、実践する。(1)	・確かな実態把握に基づく個別の教材教具準備 ・授業後の評価と今後の課題の共有	・授業ごとに一人一人の教材教具の準備を適切に行い、可能な限り能力が発揮できる環境を整えることができたか。 ・授業ごとに評価を共有し、授業の改善点や児童生徒の変容等について話し合いながら進めることができたか。	B	・一人一人の障害の特性に応じた教材準備が定着し、集団学習の際にもあらゆる段階に対応できるように教材を準備することができた。 ・VTRにより授業の振り返りや評価の確認を行い、教員間で達成度や課題について共有することができた。また、課題を見直すことで学習の広がりや方向性についても意見交換を行うことができた。	・授業案に記載する個別の単元目標が形骸化しないよう、形式の見直しなどを行い、活用しやすいように工夫する。 ・家庭での授業についてもVTRに記録し、改善案などを出し合ってより充実した活動につながるようにする。
	・教職員間で意見交換を密に行い、協働体制を整えて授業準備や授業実践に取り組む。(3)	・教員の得意分野・研究分野を生かした分業と協働体制の構築	・授業案や教材のアイデアを持ち寄り、協働体制を整えて授業準備や教材準備に取り組み、訪問教育学級全体の活動内容充実にも努めることができたか。	A	・音楽の集団学習のVTRを活用して各家庭での学習の充実を図ることができた。また、反応を引き出しやすい教材の提示の仕方などについて個々に検討し、教員間で意見を出し合いながら進めることができた。	・なす療育園での集団活動の中で、各家庭で授業を行っている児童生徒に向けた問いかけや問を設け、VTR撮影して活用するなど、集団を意識した活動につながる取り組みを多く設け、活動内容の充実につなげる。